

公開実用 昭和 58— 122514

19 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—122514

51 Int. Cl.³
A 45 D 40 18

識別記号

庁内整理番号
6671—3B

43 公開 昭和58年(1983) 8 月20日

審査請求 未請求

(全 頁)

54 口紅筆セットリング

大阪市西区立売堀2丁目1番20
—204号

21 実 願 昭57—19048

71 出 願 人 奥野務

22 出 願 昭57(1982) 2 月12日

大阪市西区立売堀2丁目1番20
—204号

72 考 案 者 奥野務

1. 考案の名称 口紅筆 セットリング

2. 実用新案登録請求の範囲

口紅を塗る際にその輪廓をはっきり美しくする爲の口紅筆(以下慣習により紅筆と云う)を口紅容器の本体の長さに近い金属キャップを有した紅筆を口紅容器に取付ける装置の考案である。

3. 考案の詳細な説明

従来より口紅と紅筆は夫々を別にハンドバッグや小物入れ等に入れて携行しているものである。

口紅の使用に際しては紅筆をバッグや小物入れより探し出して使用しているのが通常である。

衆知の通り紅筆は細くて小さく、取り出すのに大抵の場合は手間と時間のかかっている状態である。又近代のファッションの関係上、口紅の色調は服飾や目的、ムードに合わせて数本の好みの色調を使用する事も流行している。この場合一色の口紅には必ずその口紅専用の紅筆でなければならない。

然し複数の口紅を所持した場合は同数の紅筆を所持する事となり、その選択しての使用は極めてわずらわしい事である。

公開実用 昭和58— 122514

本器はこれらの不便を即時に解決し得るものである。即ち弾性をもった薄い環状の板バネを口紅容器本体の外周部に嵌めて圧着固定し、更にその環状板バネの一端を逆方向に小さい環状を作りこの部分に紅筆の筆先保護用の金属キャップを嵌めて圧着固定するものである。これによって口紅と紅筆は一体化される為、一つの口紅には常に専用の紅筆がセット出来るので紅筆を他の容器や小物入れより探し出し、選別する必要も無く、口紅を取り出せば極めて容易に紅筆を使用する事が出来るものである。

近代の使用者に於ては非常に至便であり必須の考案である。

以下本考案を図面によって詳細に説明すると、 ㉑ ～ ㉓ 図の/a/bは弾性を持った薄い板バネの本器の本体である。先づ ㉓ 図の通り/aは口紅容器の本体のキャップの外周部に嵌めて圧着固定し得る様に板バネを環状に彎曲させたものである。その一端/bは紅筆の金属キャップ

を嵌めて圧着固定する為の小さい環状の彎曲部分である。

即ち板バネをS字型に大小二つの弾性環状に彎曲させる為に口紅容器本体の外周と紅筆キャップの外周には夫々別の圧着力が働き、市販の口紅を購入する際は特定のものに決めなくても本器を嵌めて圧着固定する事が出来る。



オ1、オ2図の2は紅筆の金属キャップであり、オ1に嵌めて圧着固定されている。

オ1、オ2図の3は紅筆の柄の部分であり、筆先は2のキャップに嵌めたものである。

オ4図は本器を口紅容器の本体のキャップに取付けた場合の斜視図である。

オ4図の4aは口紅の入った本体部分であり、4bは口紅容器のキャップ部分である。この図で判明する通り、口紅と紅筆とは夫々を個々に使用することが出来るものであるが、これを一体化した口紅筆セットリングの考案である。

公開実用 昭和58-1 122514

4. 図面の簡単な説明

図1図は本器の正面図

図2図は本器の上面図

図3図は本器の側面図

図4図は本器を口紅容器のキャップ°
に取付けた場合の斜視図である

④

面 図

図 1

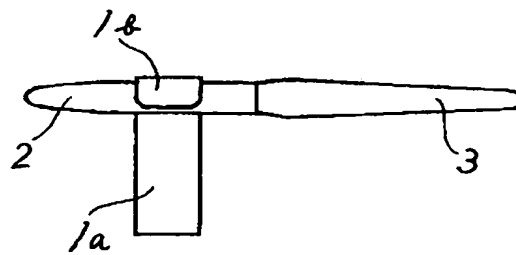


図 2

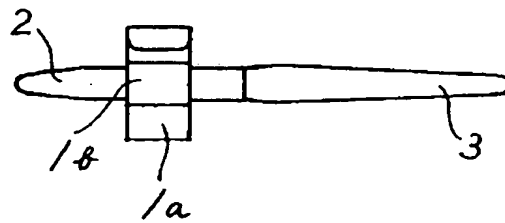


図 3

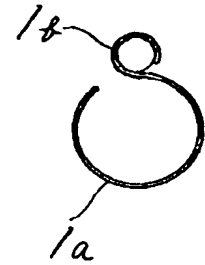


図 4

